

高嶋 航著

# 帝国日本とスポーツ



A5判・305頁・3990円  
塙書房  
978-4-8273-1253-9

一八九六年に第一回オリムピック大会がアテネで開

催されてから百年あまり、前回の北京大会に際し本年の大会はロンドンで行はれる予定だ。大会を運営する国際オリムピック委員(IOC)は国際法に基

づく非政府機関だが、大会に派遣し得るのは各国の内オリムピック委員会(NOC)に限られる。さらに時

民の体力向上といふ政府の意図と無縁ではない。このやロサンゼルス大会においては集団ボ

イス大会において「スポーツと政治とは別だ」といふ科臼の如何に空しいこと

か。戸開放、自由貿易を掲げるも断念する。

本書は、多くの図版を交へながら(アジア大会の前身にあたる)極東選手権大会と(国民体育大会の前身にあたる)明治神宮大会の歴史を辿ることを通じて、

戦前の日本におけるスポーツと政治との関係を描かうとしてゐる。極東選手権大会は、一九一三年にフィリピンで第一

回目が開催された。アメリカ統治下のフィリピンは、「極東におけるスポーツの先進国」だった。同大会の

開会式において時の総督・フォアースは「競技がフェアプレイに則っておこなわれること、そしてその経験

はのちのビジネスや他の職業において役立つであろう」と述べたといふ。高島

氏はこの発言の背景に門

出している。現に、極東大会に選手団を派遣した中華民国のスポーツ界もアメリカ人の影響下にあった。

当初、大日本体育協会はアメリカ人主導の極東選手権に対して冷淡であったが、方針を転換して「極東

力」といふ国民歌謡を発表してゐる。一九四三年の第十四回大会は大東亜會議に合はせて開催され、大東亜各地からの留学生を含めた六〇〇名が各国首脳の前で合同体操を行った。これなど、マスメディアの一種と見

ることも可能であろう。スポーツ界の主導権を巡る争いについてなど、もつ

と触れて欲しい点もあつた。だが、ス

が、戦前期日本のスポーツ界に関する研究は発展途上であるといふ。高島氏の研究が進展することを期待したい。(かねこ・むねのり氏

に里見日本文化学研究所主任研究員・近代日本政治思想史専攻)

★たかしま・こう氏は京都大学大学院准教授。京都大学大学院博士後期課程中退。博士(文学)。

論文に「天足会と不纏足会」など。一九七〇(昭和45)年生。

## 戦前の日本におけるスポーツと政治との関係を描く

金子 宗徳

イリピンや中華民国も日本に倣はうとした。だが、その体力強化が叫ばれる中、公平な判定が続出するなど、競技主体のスポーツは課題も多く、満州国の参加を巡つて日中の意見が対立したため極東大会は解散に

一九三九年九月には大日本体育協会が「くろがねの